

〔講演会報告レポート〕

日文学生のディズニーゼーション

118J114 宮崎 晴子

6月13日水曜日、4401教室で横山寿世理先生の講義を聴いた。横山先生は日本文化学科の先生である。講演の題面は「日文学生のディズニーゼーション」であった。

昨年、横山先生のゼミの受講生から「占いとディズニーは夢を見せてくれるという点など重なるところがあるのではないか」という仮説が出ており、アンケートをとることにした。調査名は、『聖学院大学日文学生の「占い」と「ディズニー」に関する調査』である。日本文化学科の1～4年生の演習・講義を対象とした集合調査法によって調査された。

講演の中で横山先生は次のような話をされた。

①困ったことが起きたとき占いを参考にするか、②TV・雑誌など載っている占いコーナーをどの程度気にしているか、という質問に対し、ディズニーグッズを持っている人と持っていない人とを合わせてグラフ（数値）化した。①では、占いを「参考にしてもいい」と思うの方が15%程多くディズニーグッズを持っていることがわかった。②では、運勢結果を気にするの方が気にしない人の方より多くディズニーグッズを持っていることがわかった。

つまり、「占い」と「ディズニー体験」は関係している。更に、「なぜ占いに親和的な学生はディズニー体験にも積極的なのか」という疑問が生まれた。また、こんな話もあった。

「なぜ占いに親和的な学生は、ディズニー体験にも積極的なのか」という疑問に対し、横山先生が個人でこれらについて研究をした。これには、島菌進の私事化論が関連している。私事化論とは、1990年以降の新しいスピリチュアリティとしての占いブームのことである。特徴は、自分1人で楽しむ傾向を占めていることだ。よって、占い好きは自己中心的であると考えられる。しかし、同時に、自分以外に頼る行為、つまり、他者依存でもあるという矛盾が生じているのだ。

ここから、「ディズニーゼーション」と呼ばれるディズニーによるグローバルゼーションが進んでいるということがわかる。つまり、日大学生の間には徹底したディズニーゼーションがより強く浸透しているのだ。

従って、横山先生の結論は、「占い」と「ディズニー体験」は関係しており、日大学生の間には徹底したディズニーゼーションが浸透しているということだ。そして、これらは日大学生だけの傾向なのかを調査対象を広げ、調べることも、また、「ディズニーゼーション」から孤立することは可能なのかを今後の課題としたい。

横山先生の講演を伺って、私は占い経験はあるが、あまり信じる方ではないし、ディズニーは中学3年生以来行っていないので、このような疑問を持つこともなかったが、関連性があるとは思ってもよらず、興味深かった。また、ディズニーゼーションに関しても興味深く、詳しく調べたいと思った。今後、アンケート調査は論文を書いていく上で必要なデータ収集の手段だと考えられる。そのため、この講演会は参考になったし、「横山先生の授業を受けてみたい」と思えるきっかけにもなった。